



私の思い出写真館

グローバルキャリアへの門出

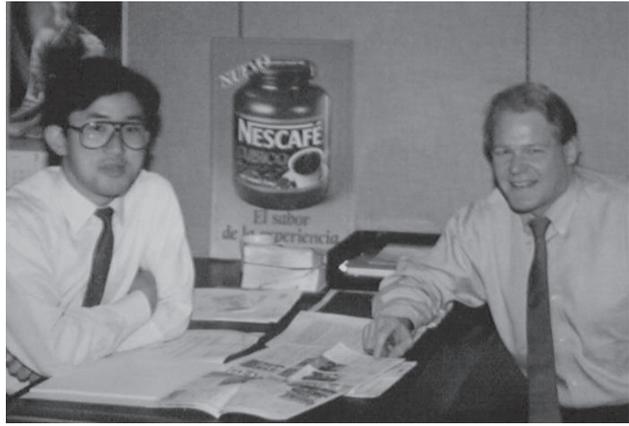


高岡 浩三

ネスレ日本
取締役社長兼 CEO

マンハッタンからホワイト・ストーン・ブリッジを渡り、車で北へ40分。1988年当時のネスレUSAは、豊かな自然に囲まれたニューヨーク郊外の高級住宅地、ホワイト・プレインズにありました。当時日本は「24時間戦えますか?」というCMのフレーズがはやったほどのバブル絶頂期。かたやUSAは不況のどん底で、まるで世界の中心がUSAから日本へ移るかのとき勢いでした。現在の中国と日本の姿が当時の日本とUSAに重なって見えるのは私だけでしょうか? この写真は、ニューヨーク本社の私のデスクで上司とミーティングをしているところを撮影したもので、ネスレ日本に入社して5年目の私にとって最初で最後の海外勤務でした。

グローバルな人材を育てるプログラムの一環で1年という短期のアサインメントでしたが、日常から日本人との接触を一切絶ってまったく話せなかった英語能力をみがき多様性を学ぶと



ネスレUSAの私のデスクにて上司のJim Real氏と。ヒスパニクス向けのネスカフェクラシコのアシスタント・ブランドマネジャー時代。

いう決心で、当時結婚して二人目の娘が生まれた直後でしたが、家族を日本に置いて単身赴任をいたしました。始めたばかりのゴルフを、土日はバッグを担いで一人パブリックコースへ。これも、少しでも多くの人と接して英語を習得しアメリカの文化の多様性を吸収したいとの一心からでした。おかげで3カ月後には英語でディベートができるようになりましたが、日本と違い「人と違う意見をぶつける」ことに価値を見いだすアメリカ文化には相当面食らう毎日、実に中身の濃い1年となりました。

グローバル人材の育成が大きな課題とされる日本。日本の古い教育システムにその解を求め^{かい}ることはできません。企業自らどのような方法でグローバル人材を育てるか。それは、企業のノウハウにかかわっています。ネスレの日本法人のトップである私にとっても、今なお大きな課題の一つです。